

経営者のための  
リアルな課題Q&A



男女に関わらず  
すべての経営者に  
共通する悩みと  
向き合うヒント5選

Q.会社の方向性をどう示すか

組織を動かすうえで、経営者が果たすべき重要な役割のひとつが方向性の提示です。目指す姿や判断基準を言葉にして共有することで、社員は迷わず行動できるようになります。この時、細かな指示を出し続けるよりも、軸となる考え方を示すことがポイントです。繰り返し伝え続けることで組織に浸透し、一体感と成果の両立が実現します。

Q.若手人材を育成するには

若年代の育成に悩む経営者が増えています。育成のキーワードは「納得」と「成長実感」です。一方的に教えるのではなく、目的や背景を共有し、自ら考えさせ、関わりあいましょう。また、小さな成功体験を積み、評価を言語化して伝えることで主体性を育てます。指示より対話を意識し、挑戦を後押しする環境づくりを進めましょう。

Q.悩んだ時の相談相手は

経営判断に悩んだ時、どうすればいいでしょう。まずは自分だけ、社内だけで抱え込まず、外部に視点を求めることが重要です。同業者や異業種の経営者、金融機関、専門家など、複数の相談先を持つことで判断の幅が広がります。この時、利害関係の少ない相手ほど本音の助言を得やすく、意思決定の質を高める支えとなるでしょう。

Q.経営リスクにどう備えるか

経営においてリスクを完全に避けることはできません。重要なのは、あらかじめ想定し備えておくことです。資金繰りや人材、取引先の変化など、起こり得る事態を洗い出し、対応策を準備しておくことで影響を最小限に抑えられます。平時から情報収集と関係づくりを進めておくことが、いざというときの判断力と行動力につながります。

Q.やるべきことの優先順位を

経営者の時間は限られているため、すべてを完璧にこなせません。まずは「重要度」と「効果」の二軸で業務を整理し、優先順位を明確にしましょう。緊急性に振り回されず、将来の成長につながる仕事に時間を配分していくべきです。また、部下にまかせられる業務は委ね、経営者にしかできない判断に集中することが成果につながります。

株式会社 電子印刷センター

別府市大字内籠1393番地 TEL.0977-66-5365  
URL https://www.denship.co.jp/



「TOPYU」のうちわ。ブランドコンセプトは「大分の自然、紙の詩」



左から長女の宇都宮和美取締役、次女の杉本久美専務取締役、杉本恵子代表取締役会長



展示会で「TOPYU」を紹介する杉本専務



杉本久美 専務取締役

女性が活躍する職場が業界の可能性を拡げる展開へ

別府市亀川の株式会社電子印刷センターは、社会福祉法人『太陽の家』の協力企業として、各種印刷物を手がけています。宇都宮俊明代表取締役の陣頭指揮の下、その高い技術力と誠実な仕事ぶりが高い評価を集めていますが、杉本恵子代表取締役会長をはじめ、女性が活躍する、明るく柔軟な社風の会社としても知られています。

一方、近年の印刷業界は、ペーパーレス化やデジタル化の波を受け、従来の受注型ビジネスだけでは成長が難しくなっています。そこで着目したのが、クリエイティブのチカラで独自の商品開発に挑戦することでした。

同社には、クリエイティブの分野で実績を積み上げてきた、ふたりのリーダーがいます。東京で電機メーカーのパッケージデザインを手がけてきた、杉本会長の次女にあたる杉本久美専務取締役。家電メーカーのプロダクトデザイナーとしてキャリアを持つ、夫の杉本国雄常務取締役。このふたりの才能を合わせた製品をつくらうと、社内にプロジェクトチームを立ち上げました。

「大分の自然と文化への想いを込めた製品ができないか

と、何度も意見を交わしました。その結果たどりついたのが「竹」と「和紙」を素材にしながら、当社が培ってきた印刷技術を注いだ製品ブランド『TOPYU』でした」

現在の製品ラインナップは、竹の板に繊細なカットを施した6種類のうちわと、竹・杉・楮の和紙を素材にした3種類の名刺ケース。レーザーカッターなどの最新設備も導入しながら造られた製品は、伝統工芸品の風合いを持ちながらも、現代的なデザインの息吹が吹き込まれ、美しく、温かみのある仕上がりになっています。

「ギフトショーや展示会でも好感触を得ており、高級贈答品として提案しています。今後は、各種デザイン賞へも応募しながら、さらなる商品展開と販路拡大に徹します」

「つくる役」を担う常務、その価値を市場に「届ける役」を引き受ける専務、品質を「支える役」を遂行する現場スタッフ。その三層が機能しながら「TOPYU」ブランドは成り立っています。

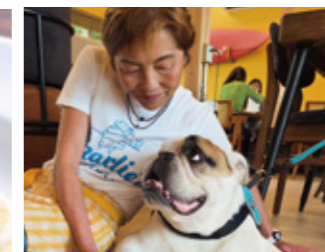
すべては、しなやかな組織風土があってこそ。変革期にある業界の、新しい方向性を示唆しているかのようです。

有限会社 明礬観光

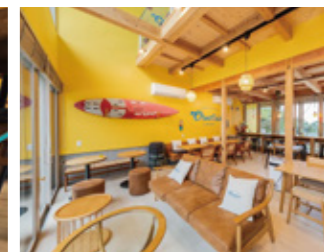
別府市明礬4組 TEL.0977-66-3228  
URL https://www.okamotoya.net



温泉たまごのとろける黄身とベーコンの旨みが重なるエッグベネディクト



看板犬・チャーリーと岩瀬取締役



ハワイ風味の開放感があふれる店内空間



変化に富んだドッグランに愛犬たちも大喜び



岩瀬裕子 取締役

老舗旅館が仕掛けるウェルビーイングの新しいカタチ

明礬温泉の岡本屋旅館といえば、別府湾を望む庭園露天風呂とミルクブルーの硫黄泉が魅力の老舗旅館。その岡本屋売店で販売する地獄蒸しプリン<sup>※</sup>は、別府を代表する人気スイーツとなっています。創業150年を迎えた2025年には、ドッグランのある地獄蒸しハワイアンカフェ『チャーリーズラナイ』をオープンさせました。現在、旅館の運営は7代目当主の岩瀬智昭氏と岩瀬伸子女将が切り盛りしています。

一方、売店とカフェの運営管理や従業員の接客指導等を任されているのが、岩瀬裕子取締役です。メニュー開発にも腕を振るい、温泉たまごと特製ツユを麺に絡めて食べる『温玉うどん』、割れた温泉たまごを再利用した『地獄蒸したまごサンド』など、いずれも岩瀬取締役が中心となって考案した岡本屋売店の人気メニューです。『チャーリーズラナイ』でも、エッグベネディクト、スパむすび、アサイーボウルなど、ハワイを感じさせる、こだわりメニューを提供しています。「私自身が、ホノルルマラソンやトライアスロン大会に何度も参加してきたほどのハワイ好きです(笑)。南国の雰囲気別府とマッチするのではと考え、お店のコンセプトにしま

<sup>※</sup>「地獄蒸しプリン」は有限会社岡本屋の登録商標です <sup>※</sup>「新湯治・ウェルネス」は別府市の登録商標です